

臨床栄養部

部長 宮島 功

人の動き

2024 年は、2 名の退職者がおりました。2024 年 4 月には 4 名の職員を迎えました。6 月には科長 1 名、12 月には主任 2 名が新たに就任し管理職体制が刷新しました（現在、部長 1 名、副部長 1 名、科長 1 名、主任 4 名）。2024 年 12 月の時点で、28 名の管理栄養士と 1 名のクラークが在籍しています。

業務・取り組み

・病棟業務

管理栄養士は、全病棟に常駐し入院したすべての患者に適正な栄養サポートを行なっています。また、医師・看護師より栄養サポートという周辺業務を取り除くことで、医師・看護師はコア業務に絞りがちることが可能となります。

・栄養食事指導（図 1、図 2）

当院では、入院患者および外来患者に対して栄養食事指導を行なっています。2024 年の入院栄養食事指導件数は 3,350 件であり、前年 2023 年の 1,969 件に比べ増加しました。その要因の一つとして、2024 年度より早期栄養介入管理加算を算定した患者で、集中治療室退室後に入院栄養食事指導料の算定が可能となったことが挙げられます。また、業務の効率化、業務サポート体制の確立が増加の要因と考えます。

一方、外来栄養食事指導件数は 1,881 件であり、前年 2023 年の 1,718 件に比べ増加しました。従来の内科患者および心臓血管外科術後の退院フォローの指導に加え、糖尿病透析予防指導の増加、消化器外科術後指導、化学療法施行患者、外来心臓リハビリテーション患者への指導など、診療科を拡大したことが要因と考えられます。

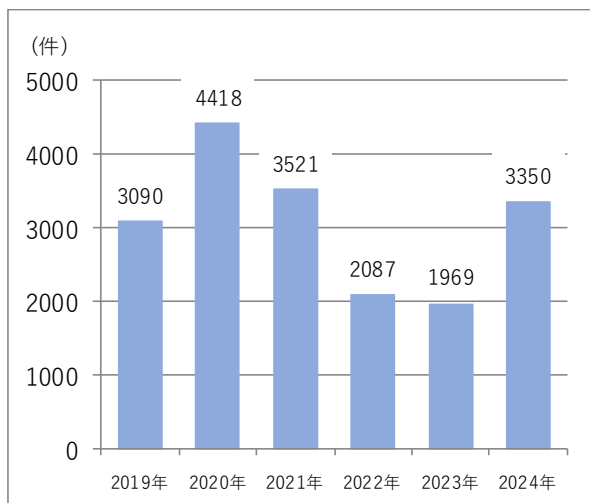


図 1. 年間入院栄養指導件数

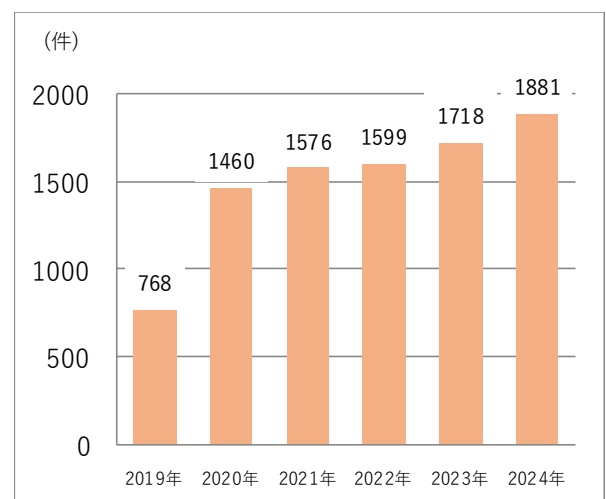


図 2. 年間外来栄養指導件数

食事提供数、絶食率の推移（図 3、4）

2024 年の 1 年間で提供した合計食事提供数は前年に比べやや減少しました。一般食・特別非加算食（高血圧食や嚥下食など）と特別加算食の割合は前年同様でした。2017 年以降特別加算食が減少し、一般食・特別非加算食が増加傾向であり、この原因として、高齢患者が増加したことで嚥下食の増加や食欲不振患者に対する減塩食の解除が考えられます。

また、絶食率は例年通り 15%以下を維持しており、2023 年の絶食率は 12.3%と低い値を推移しています。当部署では、全病棟に管理栄養士が常駐しており、「無駄な絶食をなくす」ことを一つの目標とし早期からの腸管使用に努めております。

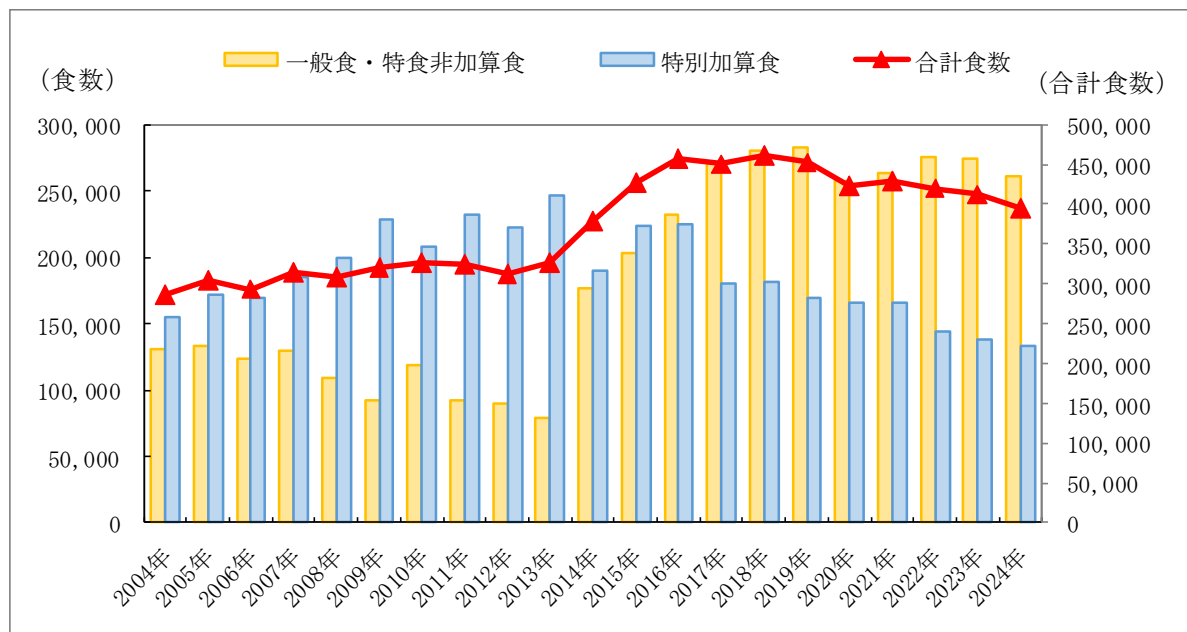


図 3. 食事提供数の推移

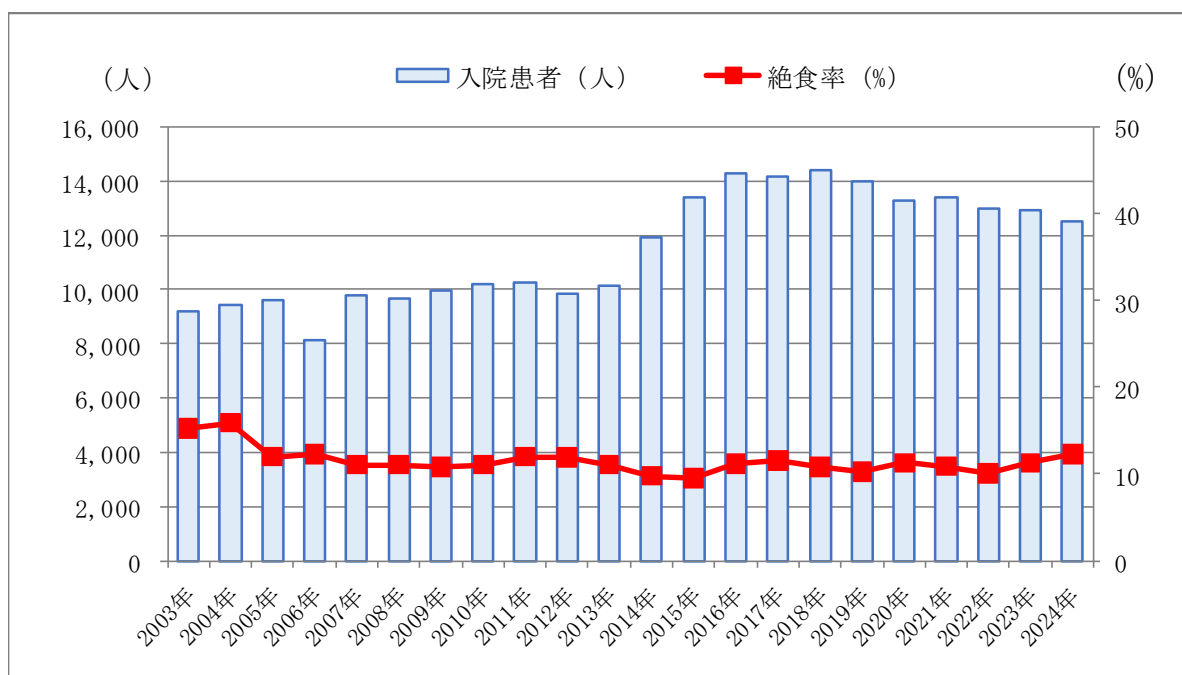


図 4. 入院患者数と絶食率の推移

フードサービス（表1）

日々の食事に関してはaim サービスとの献立会議を定期的に行い、毎月の患者アンケートや検食の意見をもとに、献立の改良を重ねています。さらに、言語聴覚士や他職種と協議を行い、安全に摂取できる嚥下食の改良も行いました。その他、行事食や季節に合わせたメニューも提供し、食事を楽しく美味しく安全に食べていただけるよう工夫を行っています（表1）。

1月 元旦 [朝食時] ・おせち		1月 元旦 [夕食時] ・ちらし寿司	
1月 いのちのスープ [夕食時] ・カリフラワーのポタージュ		2月 バレンタイン [昼食時] ・チキンライスと チョコムース	
3月 ひなまつり [昼食時] ・海鮮ちらし寿司 と節分豆		4月 いのちのスープ [夕食時] ・アスパラのポタージュ	
5月 こどもの日 [昼食時] ・豆ごはんとうぶりの山椒焼き		7月 七夕 [昼食時] ・七夕そうめんと 天ぷら	

8月 七夕 [昼食時] ・ボンファム		12月 クリスマス [夕食時] ・フライドチキン	
12月 大晦日 [夕食時] ・年越しそば			

表 1 行事食の例（2024 年）